

宮崎暢俊

(熊本県小国町長) 63歳



九州大学法学部卒業。
昭和58年から小国町長に就任。
地域資源の再生を図る「悠木の里づくり」を展開。小国杉を活用した木造立体トラス工法の「**小国ドーム**」町民体育館で**日本建築学会賞**を受賞。一連の木造建築への取組等が評価され、**建築学会文化賞**をも受賞。北里柴三郎博士の志「学習と交流」の教えを実践すべく(財)「**学びやの里**」を設立。平成6年に「**九州ツーリズム大学**」を開講。「**観光カリスマ**」として活動。

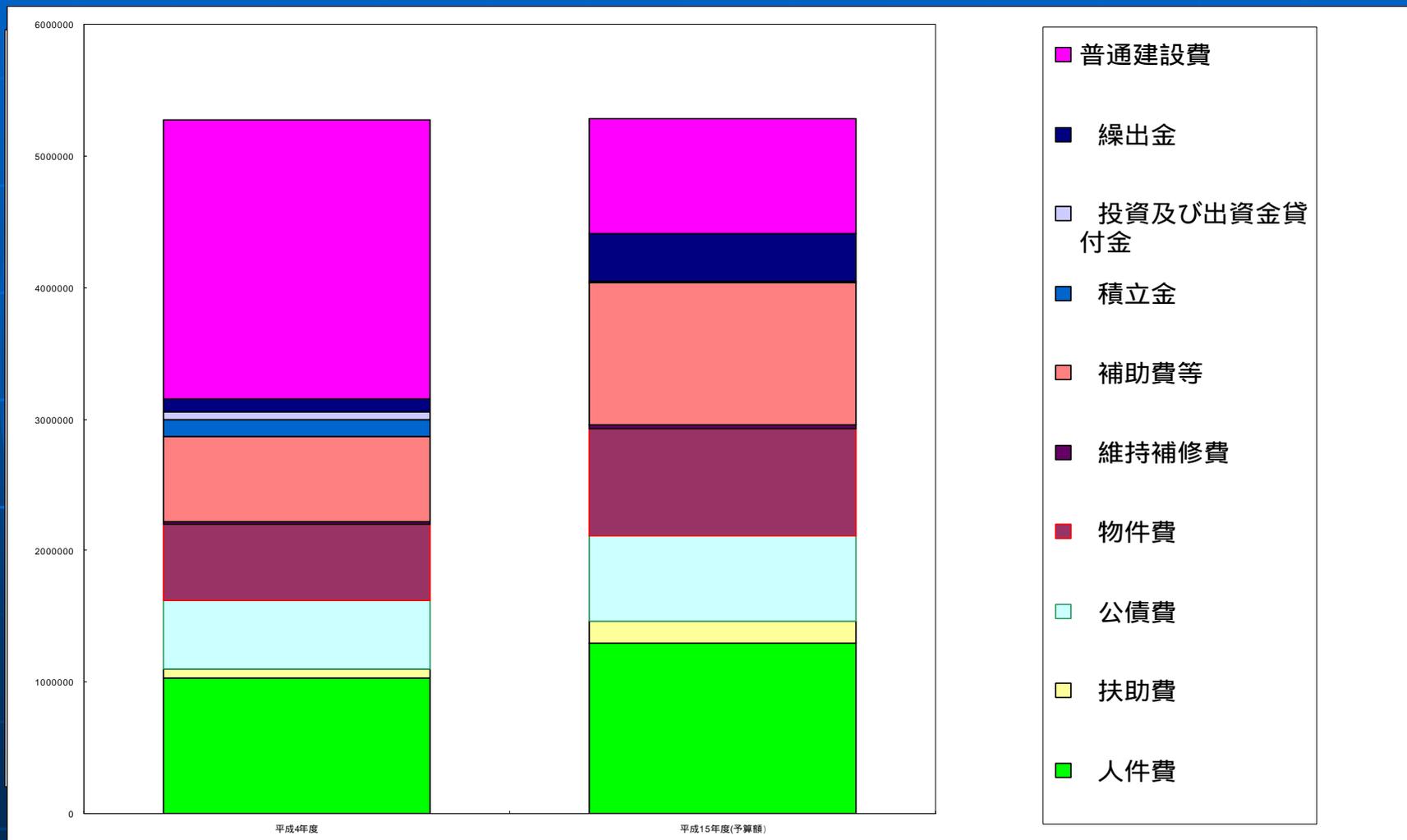
なぜ日本人は緑豊かな地域で暮らせないのか？

中央集権体制は産業・消費・文化全て都市中心政策を実施してきた。
農山村の危機は日本の国の危機でもある。

農山村は人間の生存を支えている。
国土を支えている。
文化の基盤を支えている。

更に加速化させる 三位一体改革と市町村合併

小国町の現実



H4年度決算額より災害復旧費を除くと、H15年度予算とほぼ同額となる

住みたい「まち」 選ばれる農山村とは？

- ・魅力ある暮らしの演出
- ・森や耕地のある暮らし
- ・地域内資源の活用 ~ まちの個性の演出
- ・まちのイメージストック
まちの創造力 ~ 新しいコンセプトを
生み出しているというイメージ
- ・文化の薫り ~ 情報の発信・受信

新たな農山村の可能性 小国町のチャレンジ

企業・団体(人)との連携

山間過疎調査研究プロジェクト ~ 笹川平和財団
酪農畜産再生プロジェクト
小国杉需要拡大プロジェクト

大学との連携

小国のまちづくり実態調査 ~ 東大相関社会学科
地域通貨の取り組み
「健康」をキーワードとするまちづくり
~ 九州芸術工科大学
(現九州大学)